【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【公開番号】特開2015-37750(P2015-37750A)
【公開日】平成27年2月26日(2015.2.26)
【年通号数】公開・登録公報2015-013
【出願番号】特願2014-241314(P2014-241314)
【国際特許分類】
*Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２６Ｚ
Ａ６３Ｆ　7/02　３３４
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月27日(2015.4.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１識別情報の可変表示と第２識別情報の可変表示とを行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
第２識別情報の可変表示は第１識別情報の可変表示に優先して実行され、
遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
前記遊技制御手段からの情報にもとづいて演出を制御する演出制御手段とを備え、
前記遊技制御手段は、
未だ開始されていない可変表示について、保留記憶として記憶する保留記憶手段と、
前記有利状態に制御するか否かを決定する決定手段と、
前記決定手段の決定よりも前に前記有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段と、
保留記憶が増加したことを認識可能な保留記憶情報と、前記判定手段の判定結果を示す判定結果情報とを送信する情報送信手段とを含み、
前記演出制御手段は、
前記判定結果情報にもとづいて、前記有利状態に制御されることを複数種類の演出態様から選択された演出態様により予告する予告演出を、前記判定手段による判定の対象となった可変表示が開始される以前に実行する予告演出実行手段と、
少なくとも前記判定結果情報の一部を正常に受信することができなかった場合には、前記複数種類の演出態様のうちの一部の演出態様による予告演出の実行を許容する予告演出一部許容手段とを含み、
少なくとも前記有利状態において、前記第１識別情報の可変表示を対象とする予告演出の実行を制限する予告演出制限手段をさらに備えた
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更

【補正の内容】
【０００１】
本発明は、第１識別情報の可変表示と第２識別情報の可変表示とを行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能なパチンコ遊技機等の遊技機に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
パチンコ遊技機では、始動入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて可変表示装置の表示画面において開始される特別図柄（識別情報）の可変表示の表示結果として、あらかじめ定められた特定表示結果が導出表示された場合に、「大当り（有利状態にすること）」が発生する。なお、導出表示とは、図柄を停止表示させることである。大当りが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当り遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば１０個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放回数は、所定回数（例えば１５ラウンド）に固定されている。なお、各開放について開放時間（例えば２９秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなくても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。以下、各々の大入賞口の開放期間をラウンドということがある。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
そこで、本発明は、予告演出の信頼性が低下することを防止することを目的とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（１）本発明による遊技機は、第１識別情報の可変表示と第２識別情報の可変表示とを行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機であって、第２識別情報の可変表示は第１識別情報の可変表示に優先して実行され、遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０）と、遊技制御手段からの情報にもとづいて演出を制御する演出制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００）とを備え、遊技制御手段は、未だ開始されていない可変表示について、保留記憶として記憶する保留記憶手段（例えば、図２０（Ｂ）に示す第１保留記憶バッファおよび第２保留記憶バッファ）と、有利状態に制御するか否かを決定する決定手段と、決定手段の決定よりも前に有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段と、保留記憶が増加したことを認識可能な保留記憶情報（例えば、始動入賞指定コマンド、合算保留記憶数指定コマンド）と、判定手段の判定結果を示す判定結果情報（例えば、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド）とを送信する情報送信手段とを含み、演出制御手段は、判定結果情報にもとづいて、有利状態に制御されることを複数種類の演出態様（例えば、「保留球変化」、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」の態様）から選択された演出態様により予告する予告演出（例えば、先読み予告演出）を、判定手段による判定の対象となった可変表示が開始される以前に実行する予告演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ６０

１７，Ｓ６０１８，Ｓ８１０８の処理を実行する部分）と、少なくとも判定結果情報の一部を正常に受信することができなかった場合（例えば、図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとのいずれかを受信することができなかった場合）には、複数種類の演出態様のうちの一部の演出態様による予告演出の実行を許容する予告演出一部許容手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ６００４の処理で「Ｎ」となったときにステップＳ６０２３，Ｓ６０２５，Ｓ６０２９，Ｓ６０３７～Ｓ６０３９の処理を実行する部分）とを含み、少なくとも有利状態において、第１識別情報の可変表示を対象とする予告演出の実行を制限する予告演出制限手段をさらに備えたことを特徴とする。

そのような構成によれば、予告演出の信頼性が低下することを防止することができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
（３）上記の（１）の遊技機において、予告演出一部許容手段が、保留記憶情報および判定結果情報を正規の順序で受信することができなかった場合に、複数種類の演出態様のうちの一部の演出態様による予告演出の実行を許容する（例えば、図３８に示すステップＳ６００４の処理でコマンドの送信順に受信できなかったと判定したことにもとづいて「Ｎ」になったときにも図４０に示すステップＳ６０２５、Ｓ６０２６またはステップＳ６０３９の処理を実行可能）ように構成されていてもよい。

そのような構成によれば、可変表示を行う前に実行可能な予告演出の信頼性が低下することを防止できるという効果をより大きくすることができる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】

（７）上記の（１）または（３）の遊技機において、演出制御手段が、保留記憶情報にもとづいて保留記憶手段が記憶する保留記憶の数を特定し、特定した保留記憶の数の認識可能に表示する（例えば、第１保留記憶に対応する第１通常表示（赤色の丸形表示）と第２保留記憶に対応する第２通常表示（青色の丸形表示）を使用する）保留表示制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ６０２１，Ｓ６０２２，Ｓ６０３４の処理を実行する部分）を含み、保留表示制御手段が、判定結果情報を正常に受信することができなかった場合であっても保留記憶情報により保留記憶が増加したことを認識したときには、増加した保留記憶に対応する保留表示を所定の表示態様とは異なる特別な表示態様（例えば、取りこぼし態様（緑色の丸形表示））で表示する（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ６０３４の処理を実行する）ように構成されていてもよい。

そのような構成によれば、遊技機の内部において保留記憶情報の一部を正常に受信することができない状況が生じても保留記憶の数は遊技者に報知されるので、遊技者に不信感を抱かせることを防止することができる。